

## 平成 19 年度第 1 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 19 年 6 月 23 日(土) 10:30~15:00

2. 場 所 東京夢の島マリーナ 2 階会議室

3. 出席評議員(順不同・敬称略):

(加盟団体) 北海道セーリング連盟: 浜田賢、青森県セーリング連盟: 豊田文雄(委)、岩手県ヨット連盟: 長塚奉司、宮城県セーリング連盟: 勅使河原栄幸、秋田県セーリング連盟: 佐藤利秋、山形県セーリング連盟: 齋藤和久(委)、福島県セーリング連盟: 広田喜世人、外洋北海道: 小澤貢一、外洋津軽海峡: 木立正博(委)、外洋いわき: 織田好孝(委)、茨城県セーリング連盟: 朝田耕平、栃木県セーリング連盟: 森谷茲允(委)、群馬県セーリング連盟: 中川淳、埼玉県セーリング連盟: 谷正安、千葉県セーリング連盟: 斉藤威、東京都ヨット連盟: 鈴木修、神奈川セーリング連盟: 須藤尊史、山梨県セーリング連盟: 羽田定造、新潟県セーリング連盟: 野崎喜一郎、長野県セーリング連盟: 横山真(委)、NPO 静岡県セーリング連盟: 中嶋浩二郎(委)、外洋東京湾: 福田義一(委)、外洋三崎: 川久保史朗(委)、外洋三浦: 藤田亨、外洋湘南: 榛葉克也(委)、外洋東関東: 横田光夫、外洋駿河湾: 山田良昭、愛知県ヨット連盟: 森信和、三重県ヨット連盟: 横田昌訓、岐阜県ヨット連盟: 伊藤和典、外洋東海: 坂谷定生(委)、富山県セーリング連盟: 番匠茂、石川県セーリング連盟: 石倉喜八朗、福井県セーリング連盟: 高間博之、滋賀県セーリング連盟: 山田将人(委)、京都府セーリング連盟: 勝馬登(委)、外洋近北: 行田勝之(委)、大阪府ヨットセーリング連盟: 岩崎洋一(委)、兵庫県セーリング連盟: 川上宏、奈良県セーリング連盟: 安澤厚男(委)、和歌山県セーリング連盟: 山本嘉一(委)、外洋内海: 妹尾達樹(委)、島根県ヨット連盟: 大西和彦(委)、NPO 岡山県セーリング連盟: 山崎昌樹、(財) 広島県ヨット連盟: 赤羽根慶仁(委)、外洋西内海: 金井寿雄(委)、香川県ヨット連盟: 齋藤修、徳島県ヨット連盟: 石井良直、福岡県セーリング連盟: 岩瀬広志、佐賀県ヨット連盟: 松山和興(委)、長崎県セーリング連盟: 最上修(委)、熊本県セーリング連盟: 本田肇、大分県セーリング連盟: 後藤督、鹿児島県セーリング連盟: 林雅一、外洋玄海: 高木政一(委)、外洋南九州: 剥岩政次 (特別加盟団体) 全日本学生ヨット連盟: 杉山嘉尚、(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟: 中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟: 外尾竜一(委)、全日本自治体職員ヨット連盟: 小宮三雄(委)、日本ヨットクラブ連盟: 中瀬昭、日本 470 協会: 五味克博、日本レーザークラス協会: 木村治愛、日本ウィンドサーフィン連盟: 千葉貴生(委)、日本スナイプ協会: 澤村治男(委)、日本 FJ 協会: 古屋勇人(委)、日本 OP 協会: 国見悦朗(委)、日本テザー協会: 金子文雄、日本ドラゴン協会: 國井重人、東京ヨットクラブ: 平生進一(委)、大阪北港ヨットクラブ: 吉田敬一、葉山マリーナヨットクラブ: 田中一美(委)、福岡ヨットクラブ: 白石元英(委)、徳島ヨットクラブ: 瀬川洸城(委)、日本ヨットマッチレース協会: 伊藝徳雄(委)、NPO ヨットエイドジャパン: 永松馨介(委)、日本視覚障害者セーリング協会: 日高茂樹、日本 Melges24 協会: 小畑千安紀(委)、日本 J24

協会：畠山知己（委）

以上、出席 79 名（内、委任状出席 38 名）

欠席評議員：（加盟団体）鳥取県セーリング連盟：善波周、（社）山口県セーリング連盟：藤岡悞、愛媛県セーリング連盟：黒川重男、高知県セーリング連盟：文野順夫、宮崎県セーリング連盟：後藤眞宏、沖縄県セーリング連盟：有銘兼一、（財）全国高等学校体育連盟ヨット専門部：澁谷有人、日本シーホース協会：蛭子井貴、日本シーホッパー協会：山近雅彦、日本 49er クラス協会：高野学、淡輪ヨットクラブ：太平洋和、（社）関西ヨットクラブ：大倉俊、北海道外洋帆走協会：石川彰、（社）江ノ島ヨットクラブ：松本真也、シーボニアヨットクラブ：蒲谷和行、日本ミニトン協会：山田忠雄

以上、欠席 16 名

#### （その他出席者）

会長：山崎達光、副会長：河野博文、秋山雄治、専務理事：前田彰一、常務理事：青山篤、児玉萬平、理事：安藤淳、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、小山利男、外山昌一、中山明、中村公俊、名方俊介

監事：貝道和昭、高木神学

委員会：昇隆夫国体委員長、川北達也ルール委員長、末木創造ワンデザイン計測委員長

以上、その他出席 22 名

#### 4．議題事項

- 1）平成 18 年度事業報告（案）
- 2）平成 18 年決算報告（案）
- 3）平成 19 年第 1 次補正予算（案）
- 4）その他

#### 5．議事の経過および結果

（定足数の確認）

評議員 95 名中、出席 79 名（内委任状 38 名）で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

（議長の選出及び議長の開会宣言）

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は鈴木修評議員に決定し、平成 19 年度第 1 回評議員会の開催を宣言があった。

（議事録署名人の任命）

本会の議事録署名人は議長指名により、佐藤利秋、山田良昭の両評議員が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)メンバー減少による会費収入減、また賛助会費収入減少による一般会計の財政逼迫は長年の課題であるが、平成18年度に検討された財政改革は、十分な対応ができなかった。平成19年度はプロジェクト体制を設けて、会員増強と財政健全化に向けた取り組みを開始する。また、本年はISAF100周年を記念して、9月1~2日に世界の海に船を浮かべる「Sail the World」計画を進めている。JSAFのメンバーとともに新たな時代に対応したJSAFを構築したい。なお、本評議員会におきまして重要案件等の審議をお願いしたい旨、挨拶があった。

### 議題1)平成18年度事業報告(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成18年度事業報告(案)について説明があった。平成18年度主な活動として、オリンピック招致に関してJOCの投票で東京に決まり、JSAFもオリンピック招致委員会を設けて2016年の招致に向けて対応していく。

OP選手権大会でのRRS69.2に関連する最高審判委員会からの提言に基づき理事会で審議し、関係者および関係団体に勧告と要請が提出された。その後、日本スポーツ仲裁機構に申立てがあり最終的に却下となった。特にジュニアに対するスポーツマンシップとシーマンシップの指導について大きな課題となった。平成19・20年度全国理事および監事の選挙において、1999年の両者の合併以来懸案でしたJ系・N系の枠をはずした選挙を実施した。外洋艇の計測で世界的に普及しているIRC計測方式を導入した。ナショナルトレーニングセンターに関して検討し、和歌山を候補地とした。

指定管理者制度の導入に向けて、連絡協議会を開催し活発な意見交換をした。B&G財団支援により全国10カ所の海洋センターで子供セーリング体験を実施した。環境キャンペーンとして、全日本選手権などへの支援やエコバッグの配布を行った。本年2月ISAFより講師を招き、福岡でアジア地域のIJセミナーを開催した。ドーハで開催されたアジア大会で金1銀4銅1のメダルを獲得した。広報とオリ特委員会で報道機関に対するマスコミ懇談会を開催した。世界女性スポーツ会議が熊本で開催されJSAFからも参加したとの発言があった。

同意を得た。

### 議題2)平成18年度決算報告(案)

安藤理事から資料に基づき、平成18年度決算報告(案)について説明があった。本年度決算より公益法人会計基準の採用に伴い、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録が前半部に記載され、収支計算書は参考記載に変更となった。

一般会計

2次補正予算では、当期収支差額をマイナス13,995,947円、次期繰越収支差額は前

期繰越収支差額 18,227,398 円と相殺し、4,231,451 円としていたが、当期収支差額が 16,998,760 円とさらにマイナスが増加。その結果、次期繰越収支差額は 2 次補正予算比 3,002,759 円マイナス増の 1,228,692 円となった。主な理由は、事業活動収入が 126,581,632 円と、2 次補正予算比 19,727,368 円減、および事業活動支出が 145,446,513 円と、2 次補正予算比 6,558,434 円減少、事業活動収支差額で 13,168,934 円のマイナス増となったことである。当期事業活動収入の内、2 次補正予算より減額となった主なものとしては、会費収入 7,976,000 円減、事業収入 11,944,153 円減である。当期事業支出において、2 次補正予算より減額となった主なものは、事業費 8,620,354 円減、管理費の運営費支出の 2,654,672 円減である。事業活動収入の減収に伴い、事業費、管理費支出の削減努力をおこなったものの、当期収支差額予算比 3,002,759 円のマイナス増となったものである。一般会計における収支構造の抜本的見直しの必要性は引き続き存在している。

#### オリンピック特別会計

2 次補正予算では当期収支差額を 3,847,599 円、次期繰越収支差額は前期繰越収支差額との相殺により 17,273,455 円としたが、当期収支差額が 14,354,943 円とさらに増加し、その結果次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額を加え、27,780,799 円となった。主な理由としては、事業活動支出の内、事業費支出が 3,037,190 円支出増となったものの、事業活動収入の内、補助金等収入が 1,507,500 円、募金寄付金等収入が 7,000,000 円などで、合計 6,410,197 円増となったこと、および予備費支出が発生しなかったからである。

#### 免税募金特別会計

2 次補正予算額と比べ、大幅な変更はないとの発言があった。

貝道監事から、平成 18 年度決算における監査報告があった。平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までの事業年度における財産及び会計ならびに理事の業務執行状況の監査において、適正かつ寄付行為に違反する事実はなかった。しかし、一般会計における会費収入、賛助会員収入等で予算額と乖離している。また、また外洋計測の ORCCAJ 負担金問題について、外洋統括委員会で未処理につき、遺漏ないよう処置していただきたい。そして、平成 19 年度予算案作成にあたっては、予算額と実収入の大きな齟齬をきたさぬように、実収入額の十分な把握に努めて策定される旨、発言があった。

同意を得た。

### 議題 3 ) 平成 19 年度第 1 次補正予算 (案) について

安藤理事から資料に基づき、平成 19 年度第 1 次補正予算 (案) について説明があっ

た。平成 18 年度決算が確定したこと、およびその他下記記載の事由に伴い、平成 19 年度当初予算を補正する。

#### 一般会計

収入について、日本財団助成金額が 10,400,000 円と確定したことに伴い、日本財団助成事業実施負担金を 2,487,400 円、日本財団助成事業実施協力金を 1,822,000 円とした。また、新・忘年会収入を 1,500,000 円計上した。これは、当初予算では収入だけ計上して支出は計上してなかったが、寄付金ではないのに収支差額のみ計上では問題があるので、収支双方を計上した。なお、当該収支の差額については、実行ベースにおいて収支のバランスを配慮する。オリンピック特別会計からの繰入金は、J-SAILING 負担金の 3,000,000 円に加え、オリ特関係業務従事職員人件費負担相当分 2,000,000 円についても繰り入れ、オリンピック基金事務手数料として総額 5,000,000 円を計上し、これに北京五輪広告負担分 10,945,000 円を加え、当初予算では総額で 15,945,000 円としていた。平成 18 年度末の当該職員退職に伴い、人件費負担相当分 2,000,000 円を減じ、オリ特関係通信費、コピー費相当の 800,000 円を新たにオリ特会計より繰り入れ、上記オリンピック基金事務手数料を 5,000,000 円から 3,800,000 円とした結果、総額 1,200,000 円減の合計 14,745,000 円とした。なお、当該職員相当の補充は、オリンピック特別会計において予算計上している。

支出について、管理費支出の人件費及び法定福利費支出を職員退職により合計で 5,000,000 円、当該旅費交通費を 200,000 円削減した。新・忘年会支出を 500,000 円計上した。日本財団助成金事業費は 14,709,000 円で確定した。支出合計は 126,839,000 円となった。この結果、当期収支が 171,000 円の赤字予算、これに前年度決算確定に伴う前期繰越収支差額 1,228,592 円を加え、次期繰り越し収支差額が 1,057,692 円となった。

オリンピック特別会計は、助成金確定に伴う助成金収入ならびに事業費を修正した。免税募金特別会計は、その他免税募金（日本体育協会）を 300 万円追加計上した。環境特別会計は、補正はしていないとの発言があった。

同意を得た。

## 議題 4 ) その他

### 委員会報告

- 1) 平成 19 年度挙行連盟定期表彰があった。功労賞に岩崎州男氏（現職：全日本実業団ヨット連盟会長）の 1 名、優秀競技者賞に鎌田奈緒子氏、近藤愛氏（2006 年 470 級世界選手権銀メダル、第 15 回アジア大会 470 級女子金メダル）、白石康次郎氏（ベルックス 5 オーシャン単独世界一周レースクラス 2 位）の 3 名を表彰した。

- 2) 秋田国体開催地男鹿市の佐藤市長から、国立公園として指定されている男鹿半島での本年の国体開催に、ご支援・ご協力いただきたい旨、挨拶があった。
- 3) 青山常務理事から、ISAF 100周年を記念した「Sail the World」イベントについて報告があった。過日、加盟・特別加盟団体へは開催文書を発送した。イベントの期間は、9月1~2日をターゲットとするが、本年7~10月末までの期間においてのレースやイベントに同調してご協力いただきたい。イベントのアイテムとして、記念バナー・Tシャツ等のサンプルを販売する。また、ポスター・J-SAILING・JSAF ホームページで広報する他、環境キャンペーンと合わせて全国展開していきたいとの発言があった。
- 4) 河野副会長から、東京オリンピック招致委員会報告があった。東京都に対して東京湾(若洲)での開催を要請している。2016年オリンピック開催地決定の事務については、本年9月にJOCから立候補、2009年IOC総会で最終決定する運びとなる。ISAF及びIOC関係者への働きかけを準備している。TV中継なども含めたメディアへの対応も考慮しているとの発言があった。
- 5) 山田オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、オリンピック特別委員会報告があった。2012年ロンドンオリンピックから女子種目として採用が検討されている女子ハイパフォーマンス艇評価イベント(ISAF EVALUATION)が開催され、日本からも参加した。種目決定については、日本からサブミッション提出するとの発言があった。

河野副会長から、サブミッション提出内容は、アジアからの意見としてISAFへ日本から主張する。女子2乗りハイパフォーマンスディンギーのウエイトを110~130kgの選定基準とすること。決定時期を北京オリンピック開催までに決定すること旨、発言があった。
- 6) 昇国体委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。セーリングスピリッツ級が2007年秋田国体から少年男子、少年女子の正式種目になることから、今後高校生がセーリングスピリッツ級による練習強化が始めることに合わせて、高校生を中心に「海の甲子園大会」を開催する。日本体育協会指導による国体改革(参加人員削減)は、平成20年第63回大分国体から実施される。ブロック大会の実施については、既存する大会を予選会としていただく方向でお願いしたい。なお、大分国体から少年男子・女子種目に中学3年生の参加が導入される。平成19年度国体参加者傷害保障制度運営にかかわる協力依頼について発言があった。

新潟県セーリング連盟の野崎評議員から、北信越ブロック大会については、県体協と公式大会として予算承認されていることをご理解いただきたい旨、発言があった。
- 7) 小山指導者委員長から、平成19年度指導者委員会活動について報告があった。指導者委員会組織図、バッジテスト改革、指導者養成、指導者全国会議、

講師講習会、その他について発言があった。

日本体育協会から平成 25 年以降から全競技について国体監督全員が公認指導者であることとされている。セーリング連盟として平成 20 年第 63 回大分国体から公認指導者の方向性を提示してきた事との関係を整理して、書面にて案内するとの発言があった。

- 8) 中山総務委員長から、総務委員会報告があった。国民体育大会功労者表彰対象者の推薦について依頼があった。加盟・特別加盟団体における事業計画・報告ならびに予算・決算報告の提出を速やかにお願いしたい。加盟・特別加盟団体の権利義務を今後理事会で検討するが、その前に JYA と NORC が統合して新組織を形成する精神・理念に立ち戻って、ヨットを愛好するものが未長くセーリングを楽しめる環境作りのために必要な経費を分担しようと言う、原点を忘れないで欲しい旨、発言があった。
- 9) 秋山副会長から、指定管理者協議会の開催について報告があった。指定管理者としての条件（準備事項・人員・事業計画・予算）、行政及び官庁との信頼関係の構築、指定管理者としての活動（収益事業・税制対策）、都道府県連盟と研究会や監査対応など勉強会を行うとの発言があった。

#### 加盟・特別加盟団体報告

- 1) 北海道セーリング連盟の浜田評議員から、北海道サミットに向けたジュニアヨットレースを企画しているとの発言があった。
- 2) 秋田県セーリング連盟の佐藤評議員から、今年度秋田国体ご協力のお願があった。
- 3) 埼玉県セーリング連盟の谷評議員から、来年若洲でのインターハイ開催のお知らせがあった。
- 4) 山梨県セーリング連盟の羽田評議員から、全日本 F J 級選手権大会開催のお知らせがあった。
- 5) 愛知県ヨット連盟の森評議員から、普及活動の一環で B&G 財団「プールでヨット」は子供たちに好評であるとの発言があった。
- 6) 京都府セーリング連盟から 9 月 2 日に滋賀県セーリング連盟と外洋近北との 3 者合同で I S A F 100 年事業のレースを計画しているとの報告があった。
- 7) 兵庫県セーリング連盟の川上評議員から、高校生を対象にした SS クリニックを西宮で開催するとのお知らせがあった。
- 8) 熊本県セーリング連盟の本田評議員から、国体 SS 級の購入経費について質問があった。
- 9) 大分県セーリング連盟の後藤評議員から、本年 11 月のリハーサル国体ならびに来年の大分国体への協力依頼があった。

- 10) 日本ヨットクラブ連盟の中瀬評議員から、未組織のクラブをまとめるとの発言があった。
- 11) 大阪北港ヨットクラブの吉田評議員から、メルボルン大阪ダブルハンドヨットレースの終了について報告があった。反省点として、通信手段の錯綜、プロテスト委員会の設置、ISAF-SR のサバイバルトレーニングがあげられるとの発言があった。

#### 質疑応答

- 1) 香川県ヨット連盟の齋藤評議員から資料に基づき、質問があった。
- 2) 日本ヨットクラブ連盟の中瀬評議員から資料に基づき、JSAF 会員登録について質問があった。

以上、平成 19 年度第 1 回評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 19 年 6 月 23 日

議 長 鈴 木 修

議事録署名人 佐 藤 利 秋

議事録署名人 山 田 良 昭